

## 平成 29 年度事業計画

### 基本的な考え方

当財団は、昭和 57 年の熊本県立劇場の開館以来、県民の福祉及び文化の向上に寄与することを目的として設立され、一貫して管理運営に携わってきました。平成 18 年度からは指定管理者として業務を実施し、熊本県の芸術文化振興に係る文化創造拠点としての熊本県立劇場の使命を果たしてきたところです。

こうした中、平成 28 年度末終期の熊本県立劇場指定管理者第 3 期が「平成 28 年熊本地震」の影響を受けて指定管理期間の 2 年間延長が決定され、平成 29 年度は施設の災害復旧工事等を実施しながら開館し、指定管理業務を継続することとなりました。

熊本地震は、地域の自然環境や経済・社会的インフラ、さらにはコミュニティや社会資本の在り方に大きな変化をもたらすものと考えられます。劇場の役割は、芸術的な創造性に積極的に関与するとともに、県民がそのような文化的・芸術的な価値を享受できるような環境を整備し、さらに地域に密着した公共施設の提供と交流に資することにあります。しかしながら、「創造的復興」を目指す過渡期の県民のニーズは、震災によって毀損された環境やインフラ、経済的安定や生活基盤、さらに地域の伝統や心の平穩の回復にあると思われ、劇場の役割はさらに広がるものと考えます。

こうした状況の変化と、加えて「劇場、音楽堂の事業の活性化に関する法律」を受けて策定された「熊本県立劇場運営方針」に十分留意し、施設の管理運営の基本方針として次の 3 点を掲げます。

#### 1 共生の広場としての劇場

これまで県民に提供してきた高い水準の創造的な芸術性に富む音楽や演劇などの「創る劇場」そして「観る劇場」に加えて、公共の劇場の役割としての「共生（共に生きる）の劇場」を目指します。

#### 2 安全で心安らぐ劇場

熊本地震を受けて、さらに安全で心安らぐ、快適な場所として、県民が集う「広場」としての劇場を目指します。

#### 3 公の施設としての使命を果たす劇場

施設の運営にあたっては、館の設置目的および当財団の目的に照らし公正、公平を旨とし、効率的な管理運営および文化事業の展開により、最大限の効果を目指します。

## I 施設管理事業について

管理運営にあたっては、引き続き業務の効率的な執行と、利用者が安全・清潔・快適で、親しまれ満足できる施設となれるよう留意しながら、熊本県の拠点施設としてふさわしい施設管理を行います。

特に、平成 29 年度は、建物の中・長期保全計画に基づき、平成 30 年 2 月から演劇ホールの舞台機構設備等の改修工事が予定されています。このため、定例的な利用にできるだけ影響がないよう早目の情報提供を行い、県民の文化活動拠点としての役割が果たせるよう努めます。

### 1 本格復旧工事と催事運営

当劇場は、昨年 4 月に発生した「平成 28 年熊本地震」により、施設に大きな損傷を受けましたが、館内危険箇所の応急工事により昨年 8 月下旬に開館することができました。

今後は、外壁 PC パネルの本格復旧工事に取り掛かりますが、開館しながら施工するため、平成 29 年 3 月から平成 30 年 3 月までの長期の工期が見込まれています。

本格復旧工事着工後は、貸出施設や駐車場の利用制限、催事本番時間帯以外での工事音や振動の発生等が見込まれるため、利用者への事前周知と工事への理解と協力を求めていくこととします。

駐車場は、その一部を外壁 PC パネルの加工場所として利用が予定されているため、駐車可能台数が約 150 台分減少することとなります。

そのため、関係者への周知をはじめ、ホームページや看板等で情報提供を行うとともに、部外利用者の入庫規制や、近隣のゆめタウン大江を含め関係各所と連携した対応を行うことで課題の緩和に努めています。

危機管理においては、催事本番中の大規模災害に備え、催事本番直前に劇場職員及び主催者間で協議・確認を行うこととします。初動対応の迅速化を図り、出演者や鑑賞者の動揺を防ぐアナウンス対応や安全かつ迅速な避難誘導に努めるとともに、日頃からの訓練により、職員の危機管理能力の向上を図ります。

### 2 利用者サービスの拡充

現在の貸館業務は、主催者が申し込みから本番までの催事内容や関連する手続き等をスムーズに進められるよう、催事ごとに専属担当者（コンシェルジュ）を配置する体制を基本としています。

平成 29 年度も、主催者及び来館者の安全・安心な利用とサービス向上につなげるため、以下の取組みを強化して行います。

### (1) 利用支援

施設利用者が、ホールを予約したときから公演当日に至るまで、公演に関する様々な情報の提供と、諸手続きや手配のサポートを積極的に行います。また、緊急時に、適切且つ迅速な対応ができる体制をあらかじめ準備できるよう、劇場と利用者が協働した対応を取りながら「情報の一元化」や「危機管理への対応」を図ります。

また、利用者と劇場技術者のつながりとなる「劇場コンシェルジュ」による、ホスピタリティ溢れる充実したサービスを提供することにより、安心して公演運營業務に集中できる環境を作り出せるよう支援に努めます。

### (2) 広報支援

施設利用者にとっては入場料の有無を問わず、より多くの鑑賞者が来場することを目的としています。これからは「劇場で公演を行ったら、鑑賞者が増加した！」といった集客協力にも力を注ぐことが重要です。

このため、劇場の広報誌やホームページをはじめ劇場内外の積極的な広報についてアドバイスを行うとともに、入場券の販売促進につながる提案を行うなど、鑑賞者増加の為の支援を強化します。

### (3) ホスピタリティの提供

利用者の目線に立った対応ができるよう、職員の知識を養い、心構えを再認識し、顧客満足度の高い施設を目指します。とりわけ、高齢者の方や身体に障がいのある方に対しての積極的且つ「やさしい」対応は、ホスピタリティの原点であると考え、毎日の業務に意識して対応できるよう努めます。

## 3 ホールの利用および使用料収納目標

平成 29 年度の利用日数は、平年ベースの平成 27 年度と比較するとコンサートホールで 28 日、演劇ホールで 22 日減少する見込みです。これは 2 月から 3 月にかけて行う演劇ホールの舞台機構改修に伴う全館休館によるものですが、熊本市民会館が休館している影響で、利用率は両ホールともに増加が見込まれます。入場者数は、平成 27 年度と比較して 17 万人減少の見込です。

使用料の収納額は、設備使用料、駐車場使用料ともに平成 27 年度の予算額と比較して半分程度となる見込みです。

平成 29 年度については、すでに年度内の貸出制限をおこなっているため、平成 30 年度に向けて、企業、文化団体、教育・福祉団体等への訪問や過去利用者への連絡により利用促進に取り組みます。さらに、利用者アンケート調査等で得られた施設・設備やスタッフに対する要望対応や改善に努めるとともに、新たに次の取り組みを検討していきます。

- ホームページを活用し、復旧工事の情報を発信するとともに、利用者の理解を求める
- 駐車場の運営に関して、部外利用車両の「駐車場入庫規制」の周知を図るとともに、整理誘導員の配置や、ゆめタウンや熊本学園大学等との利用提携の協議を行う
- 舞台図面や貸出備品一覧及び代行サービスのパンフレットを作成する
- 茶道、装道の体験研修を通じて、日本の伝統文化を学び、感性を磨くなど、一般的な接客研修に加え、車椅子の操作や高齢者対応を目的とした研修を行う

[平成 29 年度のホール利用見込]

	平成 27 年度			平成 29 年度			
	利用可能 日数	利用 日数	利用率	利用可能 日数	利用 日数	H27 との 差異	利用率 (%)
コンサートホール	296 日	217 日	73.3%	252 日	189 日	△28 日	75.0%
演劇ホール	285 日	225 日	78.9%	239 日	203 日	△22 日	84.9%
入場者数	490,625 人			321,000 人			

[平成 29 年度の施設使用料収納額（県予算見込）]

	平成 27 年度		平成 29 年度	
	予算（千円）	実績（千円）	予算（千円）	対 H27 予算
設備使用料	146,133	132,003	75,479	51.6%
駐車場使用料	79,499	76,525	40,704	51.2%
合 計	225,632	208,528	116,183	51.5%

## Ⅱ 文化事業（公1）

### 県民の文化の振興に必要な業務

#### 1 事業実施方針

熊本県立劇場では、熊本県の文化振興施策を実現するため、熊本県と協議しながら県内公立ホールや熊本県文化協会等と連携し、これまで34年間にわたりさまざまな文化事業に取り組んできました。

平成28年度は熊本地震により当劇場はじめ県内の多くの文化施設が被災したため、公演の延期・中止など当初計画の大幅な変更を余儀なくされました。一方で、被災した方たちの心のケアに資するため、県内外のアーティストの協力のもと〈アートキャラバンくまもと〉に取り組みました。

平成29年度は、これまで県民に提供してきた高い水準の創造的な芸術性に富む音楽や演劇などの「A. 芸術文化の創造拠点としての取り組み」と、「B. 芸術文化の普及拠点としての取り組み」に加えて、〈アートキャラバンくまもと〉をはじめ熊本地震からのこころの復興につながる共生（共に生きる）の広場としての取り組みを進めます。

#### 2 個別事業コンセプト

「平成28年熊本地震」による指定管理期間の2年間延長が決定された中、従来の理念を継承・発展しつつ、平成29年度においても県の方針に則り次の5つを柱のもとに取り組みます。

##### A 創造拠点として取り組む事業

- ① 《創り育む》 舞台芸術を創造するための人材育成や文化団体の活動支援
- ② 《広げる》 地域の公立ホールと連携し、県内全域での鑑賞機会提供
- ③ 《伝える》 伝統芸能の継承・発展と活動支援

##### B 普及拠点として取り組む事業

- ① 《楽しむ》 民間では実現が困難な舞台芸術の鑑賞機会の提供
- ② 《出会う》 芸術文化に触れる機会の提供

文化事業の入場者及び参加者数は、平成29年度においては33,000人を目標とします。

(1) 県委託事業

A 芸術文化の創造拠点として取組む事業

① 《創り育む》

熊本県立劇場が本県文化創造の拠点施設として、県民や文化団体の活動を育成・支援するため、以下の事業に取り組みます。

期日	会場	事業名	目標入場者（人）
8月18日（金）	演劇ホール	ピノキオ（公1）	450
神奈川芸術劇場が平成25年度に初演し高い評価を得た、親子のためのファミリーミュージカル「ピノキオ」の上演。演出・脚色、宮本亜門。 関連企画としてワークショップ「ミュージカルを体験しよう！」を実施。文化庁助成申請中。			
8月27日（日）	コンサートホール	第59回熊本県芸術文化祭オープニングステージ ヤマカズが贈る 新・オーケストラ（公1）	2,000
平成27年度から3年間にわたり、指揮者の山田和樹を芸術監督に迎えて取り組んでいるプロジェクトの第3弾。管弦楽は山田が音楽監督を務める横浜シンフォニエッタと芸文祭オーケストラ、合唱は芸文祭合唱団で、マリンバ独奏に出田りあを迎える。演奏曲目は平成音楽大学 出田敬三学長への委嘱作品「マリンバ・コンチェルト」、マーラー作曲交響曲第8番の第1部ほか。 関連企画として「オーケストラ講座」を計画。文化庁助成申請中。			
H30.3月25日 （日） 予定	熊本市現代 美術館ほか	オハイエくまもと協力事業（公1）	500
「オハイエくまもと にとっておきの音楽祭」への協力。オハイエ音楽隊を指導する講師（演奏家）を派遣するほか、熊本市現代美術館を会場とするコンサートの制作・運営を担う。			
通年	熊本県内	コミュニケーション能力の育成に資する芸術 体験表現（公1）	500
平成22年度から文科省の委託事業として実施。児童・生徒に対し芸術家による表現手法を用いた計 画的・継続的なワークショップ等の実技指導を行うことにより、コミュニケーション能力の育成を図 る。文科省委託事業予定。			
通年	演劇ホールほか	県劇ゼミ（公1）	100
平成28年度に続き、舞台技術者や制作者の養成を目的に、県内外から講師を招き講座を実施。公演 に必要な知識や技術の基礎を学ぶとともに、実際の公演を対する実地研修も実施。文化庁助成申請中。			

通年	コンサートホール 演劇ホール	文化活動支援事業（公1）	7,200
<p>熊本県内で活動する文化団体に、熊本県立劇場での発表の機会を提供することにより、文化団体の育成・発展を図るとともに、県民への舞台鑑賞の機会を提供するための支援を行う。8団体採択。（下記一覧表参照）</p>			

[文化活動支援事業一覧（8団体）]

期日	会場	事業名	ジャンル	主催者
4月29日 （土）	コンサートホール	第34回熊本市民吹奏楽団 定期演奏会	吹奏楽	熊本市民吹奏楽団
5月6日 （土）	演劇ホール	珠寿恵会45周年記念公演会	伝統芸能	珠寿恵会
5月14日 （日）	コンサートホール	第103回熊本交響楽団定期演奏会	オーケストラ	熊本交響楽団
7月17日 （月・祝）	演劇ホール	熊本子どもミュージカル 第5回公演	演劇	児童劇団「大きな夢」熊本子どもミュージカル
9月17日 （日）	コンサートホール	創立70周年記念NHK熊本児童合唱団 第13回定期演奏会	声楽	NHK熊本児童合唱団
11月18日 （土）	コンサートホール	熊本大学マンドリンクラブ 第60回定期演奏会	器楽	熊本大学マンドリンクラブ
11月26日 （日）	演劇ホール	熊本バレエ劇場2017 くるみ割り人形	洋舞	熊本バレエ劇場
11月30日 （木）	演劇ホール	第59回熊本県日本舞踊協会公演	伝統芸能	熊本県日本舞踊協会

期日	会場	事業名	目標入場者（人）
11月4日（土）	コンサートホール	熊本県新人演奏会（名義共催）（公1）	800
<p>音楽を志して活動している熊本県出身もしくはは在住の才能ある若手演奏家を紹介し、その活動の伸展の契機とする演奏会。熊本県文化協会ほかの主催。</p>			
12月3日（日）	コンサートホール	熊本県民第九の会 ベートーヴェン「第九」（名義共催）（公1）	1,300
<p>熊本県立劇場開館以来、広く県民から公募して続いている熊本県民第九の会によるベートーヴェン「第九」の演奏会を共催で実施する。熊本県民第九の会ほかの主催。</p>			

② 《広げる》

熊本地震を受け、熊本県立劇場が進めるこころの復興推進事業「アートキャラバンくまもと」のほか、熊本県の中核的な文化ホールとして県内公立文化ホール等と連携し、県内各地域における舞台芸術の普及を図るため、以下の事業に取り組みます。

期日	会場	事業名	目標入場者（人）
通年	熊本県立劇場 熊本県内	アートキャラバンくまもと（公1）	7,550
<p>熊本地震後、被災者や子どもたちの心の復興をアートで支援することを目的に、継続事業として実施。「くまモン音楽祭」、「宮崎国際音楽祭管弦楽団」、「東京キャラバン 2017」等行う。事業費は寄附金を充当するほか、文化庁へ助成申請中。</p>			

期日	会場	出演団体（ジャンル）	目標入場者（人）	
<p>ネットワーク事業（公1） 県内外の文化団体やプロの芸術団体による公演を、県内市町村や公立文化ホールと連携し、経費や役割を分担して実施する。文化庁助成申請中。</p>				
1	9月23日 （土・祝）	水俣市文化会館 （水俣市）	三遊亭好楽（落語）	1,500
2	10月	菊陽町図書館ホール （菊陽町）	熊本交響楽団（管弦楽） （調整中）	
3	H30. 3月4日（日）	天草市牛深総合センター （天草市牛深町）	野村万禄（狂言）	
4	H30.3月	美里町文化交流センター 「ひびき」 （美里町）	林家たい平（落語） （調整中）	

期日	会場	事業名	目標入場者（人）
通年	熊本県内	公立文化ホール支援事業（公1）	100
<p>平成 22 年度から教育や福祉の現場で取り組んできたアートによるコミュニケーション事業の実績報告書を作成のうえ、県内公立文化ホール職員を対象とした研修会において、当該事業のノウハウや効果を伝えることを通して、県内への普及を図る。また、公立文化ホールが主催する事業への特殊備品の貸出し、情報発信、ノウハウ提供、研修会等への講師派遣等の支援を行う。</p> <p>「震災アーカイブ記録集」の製作…熊本地震による県内公立文化ホールの被害状況や、復旧工事の状況、休館時における業務内容等、各館ごとの概要を取り纏め、震災の記録を残すとともに、公立文化ホールの防災普及啓発を図る。事業費の一部は、全国公立文化施設協議会からの寄附金を充てる。</p>			

### ③ 《伝える》

世代を超え、地域社会のコミュニティ形成に大きな役割を果たしてきた伝統芸能や日本の伝統文化を継承し発展させるため、以下の事業に取り組みます。

期日	会場	事業名	目標入場者（人）
通年	県内各地	邦楽地域活性化事業（公1）	1,200
<p>（一財）地域創造が日本の伝統芸能を後世に伝えるために都道府県と共催で取り組む事業。熊本県立劇場は、平成 22 年度の実施に続き 2 回目の開催。公立文化ホールにおけるワークショップと学校等でのアウトリーチ事業のほか、熊本市男女共同参画センターはあもにいでガラ・コンサートを実施。荒尾市、山鹿市、天草市の 3 市で開催予定。</p>			
通年	通年	地域伝統芸能育成事業（公1）	550
<p>江戸時代から山都町に伝わる伝統芸能の「清和文楽人形芝居」の普及と担い手の育成を図るため、県内の公立文化ホールと連携して公演を実施するほか、淡路人形座による研修・指導を行う。文化庁助成申請中。</p>			
通年	県内各地	伝統芸能発信事業（公1）	—
<p>地域の伝統芸能の掘り起こし。</p>			
通年		創造拠点新規企画事業（公1）	—
<p>次年度以降の創造拠点事業の企画・調査を行う。</p>			

## B 芸術文化の普及拠点として取組む事業

### ① 《楽しむ》

音楽と演劇の専門ホールを持つ熊本県立劇場の特性を活かし、民間では実現が困難な質の高い舞台芸術公演等の鑑賞機会を提供するため、以下の事業に取り組みます。

期日	会場	事業名	目標入場者（人）
5月17日(水)	コンサートホール	フィルハーモニア管弦楽団（鶴屋共催） （公1）	1,700
鶴屋百貨店創業65周年・熊本県立劇場35周年記念共同企画で、熊本地震復興支援チャリティーコンサートとして実施。エサ＝ペッカ・サロネン指揮、ヴァイオリン独奏 諏訪内晶子。曲目はベートーヴェン「交響曲第7番」ほか。			
9月7日(木)	コンサートホール	KUMAMOTO JAZZ 2017（公1）	1,500
国際ジャズフェスティバル「東京 JAZZ」と連携し、幅広い観客層が楽しめるジャズ公演を実施。出演は人気実力とも国内トップクラスの小曾根真トリオに加え、新進気鋭の海外アーティストを予定。文化庁助成申請中。			
12月1日(金)	コンサートホール	マリインスキー歌劇場管弦楽団（公1）	1,600
世界的指揮者ワレリー・ゲルギエフ率いるマリインスキー管による公演。曲目はラフマニノフ「ピアノ協奏曲第4番」ほか。また関連企画として、熊本地震で被災した子どもたちのための無料招待コンサート「ピーターと狼 for KIDS」を実施する。文化庁助成申請中。			
H30. 1月27日(土)	演劇ホール 特設ステージ	名もなく貧しくもなく美しくもなく （公1）	150
手話で表現するろう者の女優・大橋ひろえと、聴者の女優・大窪みこえによる二人芝居を字幕なしで上演。観客もハンデをもって鑑賞し、ハンデを乗り越え楽しむことで、障がい者に対する理解を深め多様性を尊重する社会づくりの一助とする実験的演劇公演。文化庁助成申請中。			
9月9日(土)	演劇ホール	夏季狂言の会（名義共催）（公1）	800
人間国宝の野村万作と、狂言師でありながら現代劇や映画に主演・演出するなど幅広く活躍する野村萬斎親子による狂言の上演。主催：熊本「万作・萬斎の会」。			
11月13日(月)	演劇ホール	松竹大歌舞伎（名義共催）（公1）	1,000
本格的な歌舞伎を、地方にいながらにして鑑賞できる松竹大歌舞伎。演目未定。 主催：熊本日日新聞社。			

②《出会う》

熊本県立劇場が「共生（共に生きる）の広場」としての役割を果たすほか、劇場以外の場所で、多くの子どもたちが芸術文化に触れる機会を提供するため、以下の事業に取り組みます。

期日	会場	事業名	目標入場者（人）
6月22日（木）	演劇ホール	館長講演会（公1）	800
芥川賞作家で、臨済宗僧侶の玄侑宗久氏と姜館長による対談式の講演会。 イベント名は「こころの好縁会」（仮）。			
8月14日（月）	演劇ホール	県劇まつり（公1）	800
劇場が開かれた場（広場）であり、地域の方たちが気軽に立ち寄る集いの場にしようと企画。近隣の高校生・大学生や地域住民によるステージ発表のほか、飲食ブースの出店を行う。			

通年	御船町 あさぎり町他	アウトリーチ事業（公1）	700
地域においてクラシック音楽を身近なものとするため、公共ホールや学校等にアーティストを派遣し、開催市町村と共催で演奏会や出前授業等を実施する。ホールまで直接足を運ぶ機会の少ない方々のもとへ演奏家が出向き、鑑賞機会を作ることで鑑賞者の拡大につなげる。文化庁助成申請中。			
1	7月	御船町	熊本県立劇場 登録アーティスト・協力アーティスト (ヴァイオリン/緒方愛子、コントラバス/亀子政孝 サクソ/山崎明、村田貴洋、西口新一郎 ピアノ/山本亜矢子)
2	10月	あさぎり町	
3	2月	益城町	

通年	熊本県内	ぴっころシート事業（公1）	200
企業からの協賛金を元に公演チケットを購入し、児童養護施設などの子どもたちや熊本地震で被災した子どもたちを招待する事業。			
通年		普及拠点新規企画事業（公1）	—
来年度以降の普及拠点事業の企画・調査を行う。			